

鵜沼宿菊川酒造 本蔵等改修

2007年2月～2007年10月

設計：株式会社 建築計画研究所

施工：株式会社 安藤建設

はじめに



本蔵
北東より



豆蔵
北西より



一号二号倉庫
南側より

この菊川酒造は、旧中山道鵜沼宿のほぼ中心に位置し、近くには、大安寺川、二ノ宮神社、脇本陣跡、武藤家（旧郵便局）などがある。敷地内には昔ながらの趣を残す古い建物から近代的な建物が数多くある。そのほとんどが現在も利用されておりこの付近の重要な景観を形成している。特に本蔵、豆蔵、一号・二号倉庫は、旧宿場町の景観を形成する重要な建物として、国の登録有形文化財、市の景観重要建造物に指定されている。今回、傷みの激しい漆喰塗・土壁や板壁を中心に改修することになった。当初、耐震補強の面もどのような改修が可能か検討されたが、予算上の問題もあり、内部の改修は、基本的に実施しない方向で、外部壁仕上に限定した改修方針で改修計画が進められた。内部改修は、一部開口部の改修や屋根下地の補修という項目に限定した。

旧中山道沿いの部分に関しては、将来の道路改修を考慮し、現況道路の交通量を考慮した安全性と景観を考えた改修を行うことになった。

目 次

- ☐ 建物概要
- ☐ 改修前の問題点（本蔵・豆蔵・一号二号倉庫）
- ☐ 現況写真（本蔵・豆蔵・一号二号倉庫）
- ☐ 本蔵改修
- ☐ 豆蔵改修
- ☐ 一号・二号倉庫改修
- ☐ 改修工事写真（本蔵・豆蔵・一号二号倉庫）
- ☐ 完成写真（本蔵・豆蔵・一号二号倉庫）
- ☐ 配置図
- ☐ 実施設計図書（抜粋）

□ 建物概要（本蔵・豆蔵・一号二号倉庫）

○ 建物場所 岐阜県各務原市鵜沼西町地内

○ 建物用途 酒造会社 蔵・倉庫

○ 本 蔵 大正 9 年頃竣工 築約 85 年

本体南側に平屋部分を増築（年代不詳）

西側で建物を切断し改修補修

屋根瓦を空葺きに葺替え（S62 年）

建物規模 床面積 1 階 456.9 m² 2 階 342.1 m²

延床面積 799.0 m² 建築面積 456.9 m²

階数 2 階建 東西 24.4m 南北 18.7m

軒高 約 6.0m 最高の高さ 約 11.2m

仕上概要 屋根 : 日本瓦葺き（引掛棧葺）屋根勾配 6.9 寸

外壁 : 土壁漆喰塗仕上 一部洗出仕上 下見板張 腰壁羽目板張
西妻壁及び平屋部分がガルバリウム鋼板張・カラートタン張

内壁 : 漆喰塗壁及羽目板張

床 : 1 階土間コンクリート 2 階板張

天井 : 根太天井 小屋根裏現し

○ 豆 蔵 昭和初期に移築してきたと見られる（年代不詳）

東側 2 スパンの増築跡が見られる

東南カドに鉄骨柱補強（S60 年）

西面鉢巻部分は漆喰塗落下によりカラートタン張補修（H12 年）

建物規模 床面積 1 階 204.3 m² 2 階 196.6 m²

延床面積 400.9 m² 建築面積 204.3 m²

階数 2 階建 東西 20.9m 南北 9.8m

軒高 約 5.5m 最高の高さ 約 8.65m

仕上概要 屋根 : 日本瓦葺き（土葺）屋根勾配 5.5 寸

外壁 : 土壁漆喰塗仕上 一部洗出仕上 下見板張 腰壁羽目板張
西妻壁及び平屋部分がガルバリウム鋼板張

内壁 : 漆喰塗壁及羽目板張

床 : 1 階土間コンクリート 2 階板張

天井 : 根太天井 小屋根裏現し

○ 一・二号倉庫 明治後期頃竣工と見られる（年代不詳）

一号倉庫は洋小屋、二号倉庫は和小屋造

建物規模 床面積 1階 124.0 m² 2階 73.7 m²
延床面積 197.7 m² 建築面積 124.0 m²
階数 2階建 東西 6.24m 南北 19.9m
軒高 約 4.8m 最高の高さ 約 6.5m

仕上概要 屋根 : 日本瓦葺き（土葺）屋根勾配 5.5 寸
外壁 : 土壁漆喰塗仕上 下見板張 腰豎羽目板張
西壁腰部分がガルバリウム鋼板張
内壁 : 漆喰塗壁及羽目板張
床 : 1階土間コンクリート 2階板張
天井 : 根太天井 小屋根裏現し

□ 改修前の問題点

○本蔵

本格的な和小屋組の架構が現しになっており、長スパンの丸太径の架構がすばらしい 2階建て土蔵造りの建物である。1階には、かつて冷蔵庫として利用されていた室（むろ）があり壁内には靱殻が詰込まれている。西側妻壁をみると外部タンク作成のためにこの位置で建物を切り縮めたことがわかる。また、南側の陸屋根平屋部分はコンクリート屋根で本体完成後増築されたことがわかる。この建物は現在も使用されており、内部には仕込み用のタンクが数多く並んでいる。屋根の日本瓦葺は昭和 62 年に空葺きに葺き替えられており、外壁も鉢巻部分を含めカラートタンに改修されているが、外部廻りで唯一漆喰塗りが見える南面 2階部分の壁や鉢巻部分はひび割れが多く、部分的に漆喰が剥離し中塗りの土壁が露出している箇所がある。また、北面東面の下見板補修のカラートタン張や鉢巻部分の漆喰塗リ補修のカラートタン張も各所に傷みがみられ張替えの時期にきているとみられる。

○豆蔵

登り梁形式の和小屋部分と一部洋小屋形式の部分が混在する架構となっており、その継ぎ目部分をはじめ特に増築された壁廻りなど 2階床が損傷している箇所がかなりある土蔵造りの建物である。また、増築に際し小屋束高さが間違っ造られており（推測）棟の高さが落ちたようになっている。部分的には柱・梁共補修された箇所が多く鉄骨支柱による補強（昭和 60 年補修）もみられる。屋根の日本瓦葺きは老朽化かなり進み下地の土がずれて野地板もかなりの箇所傷んでいる。所々瓦下地の土が落下し、漏水跡の箇所もみられる。外壁廻りも西面の腰羽目板・下見板張部分を除き鉢巻部分を含め全てカラートタン張に改修されている。以前は、現況西面の如く腰羽目板・壁下部下見板張・上部壁漆喰塗リ・鉢巻部分漆喰塗リであったと思われる。西面の鉢巻

部分の漆喰塗りは、カラートタン張にて平成12年に改修されている。北面の下見板張補修のカラートタンも各所に傷みがみられ張替えの時期にきている。この蔵は、内部には仕込み用タンクが残っているが現在は全く使用されておらず取り壊し寸前の状態にある。屋根瓦の全面的改修や2階床の張替えや軸組補強など大規模な改修が必要とみられる。

○一号倉庫・二号倉庫

一号倉庫は洋小屋（キングポストトラス形式）二号倉庫は和小屋（登り梁形式）の小屋組みで両者がくっついている構造であり、足元（基礎部）は道路側に高低差があり石積みが設けられている土蔵造りの建物である。現在も倉庫として利用されている。東面北面の腰下見板張はかなり損傷がみられ、下見板材の落下の危険があり一部内部の土壁が剥離している箇所もみられ、カラートタンで張替え補修している部分もある。また壁上部の外部漆喰塗りもかなり損傷しており剥離により土壁が露出している箇所がある。鉢巻部分の漆喰塗りはその割りに損傷箇所は少ない。西面の腰羽目板張も腐朽損傷が進み張替えの時期にきており、羽目板内部の土が剥離落下している箇所もみられる。

□ 現況写真



北東角より
本蔵東面と
敷地玄関



本蔵東面全景



街道沿い
北面全景



本蔵南面



本蔵内部の
様子



豆蔵北東部



豆蔵西面・北面
全景



豆蔵2階
内部廻り



一号二号倉庫
東面全景



一号二号倉庫
北面上部



一号二号倉庫
東面全景と小道



西面外壁



一号倉庫内部の
小屋組



二号倉庫内部

□ 本蔵改修

昭和 62 年に屋根は、土葺きの瓦に代わって空葺き屋根に葺替えを行っており今回は外壁部と鉢巻部分の改修を行った。外壁の下見板張を伺い知れる資料はどこにも残っておらず、張り方については色々と検討したが、唯一昔の姿をとどめる豆蔵西面の板壁を参考に同じ張り方とした。汚れや腐朽が進みやすい腰を豎羽目板とし、傷んだ部分だけの取替を容易に可能となるようにした。そして上部壁を下見板張とした。この張り方は、腰部の板材の張り方は異なるが、愛知県半田市の酒蔵でみられる。

内部調査などにより当初は換気用と明かりとり窓も 1 階部分 2 階部分に設置されていたが、今回は一切設けなかった。

壁上部の屋根につながる鉢巻部分は、当初の漆喰塗りの下地土壁は表面剥離も見られこのまま下地の土壁を補修し漆喰塗で仕上げる方法では、いつ剥離落下をおこすか危険があるため、今回は既存の豆蔵西面の鉢巻の張と同様にボードを張りその上をガルバリウム鋼板で覆う方法をとった。南面のテラス部分については落下剥離の危険があっても被害が小さいと思われるため、下地を全面やり替えて漆喰塗補修を行っている。

この蔵の東面は、菊川酒造の顔となる位置でもあり窓の改修も行った。板壁の塗装色は、酒蔵に伝統的に多い黒色とした。この黒は酒麹菌の作用でこのように黒くなったと言われている。(菊川談)

□ 豆蔵改修

豆蔵は屋根瓦の改修も今まで行っておらず、今回は、街道沿いの屋根を中心に瓦落下の危険を取り除く方針で瓦補修を一部行った。外壁部分の改修は、本蔵に並ぶ蔵のため本蔵と同じ方針で改修を進めた。(本蔵参照)

東面は一部鋼板の塗装や張替のみで南面は工事対象外としている。

豆蔵は現在、全く使用されておらず屋根の大々的な改修と主体構造の本格補強も将来は必要であると思われる。古い本蔵・豆蔵を通じ西面の立面外壁が当時の面影を残す唯一の姿を残すところとなっている。

□ 一号・二号倉庫改修

この倉庫は、現況の外壁に昔ながらの形状が良く分かる部分が各所に残っており、北面・東面共復元を主体とする改修となった。西面のみ腰板壁の痛みが激しい箇所があるため内部の土壁補修と合わせてガルバリウム鋼板張とし昔とは異なる材料となった。一部、腐朽箇所進んだ柱部分には、内部添え柱にて補強を施した。東面・北面の開口部は、現況合板等で塞いでいる状態であるため、今回は嵌め殺しサッシュ・アルミガラリを新設した。外部の縦格子は既設の塗装補修を行い、水納まりを考慮し格子外にガラスを嵌め込んだ。(結果的に二重硝子の窓となった) 屋根廻りの瓦葺きは、一切改修せず樋の全面やり替えと鉢巻部分の漆喰塗を部分補修している。この倉庫と接する公道には、高低差があり石積みの擁壁があるが玉石積みの部分を一部補修している。この小道は地元小学生の通学路となっている。

□ 改修工事写真（豆蔵）



トタン壁解体後
木下地取付用金物
取付



下見板塗装（作業場にて）

鉢巻部トタン撤去後の状態

壁木下地取付前の様子





下見板取付用木下地材



下見板取付の様子



市検査の様子



鉢巻部の下地取付前



屋根瓦の補修の様子



鉢巻部の鋼板取付後

□ 改修工事写真（一号・二号倉庫）



北面の下見板取付用下地



北面下見板取付用下地の下部



市現場視察



下見板取付の様子



北面上部のガラク部



北面漆喰塗の補修



北面漆喰塗壁の補修状況



柱の補強補修（添え柱）



北面ガラリ部の漆喰塗壁補修



窓廻りの補修状況



市完成検査

□ 改修工事写真（本蔵）



北面下見板取付用木下地



南面鉢巻部分のザラ板



北面下見板取付



市現場視察



南面鉢巻部の漆喰塗下地



南面鉢巻部の漆喰塗下地



南面鉢巻部の漆喰塗



窓の格子



足場解体後の
全景

□ 完成（改修後）写真



本蔵東面の全景



本蔵北東よりの全景



本蔵北面と塀の外壁



塀と豆蔵北面の外壁



本蔵南面の鉢巻部漆喰塗



豆蔵西面壁と本蔵・
塀・豆蔵と続く壁

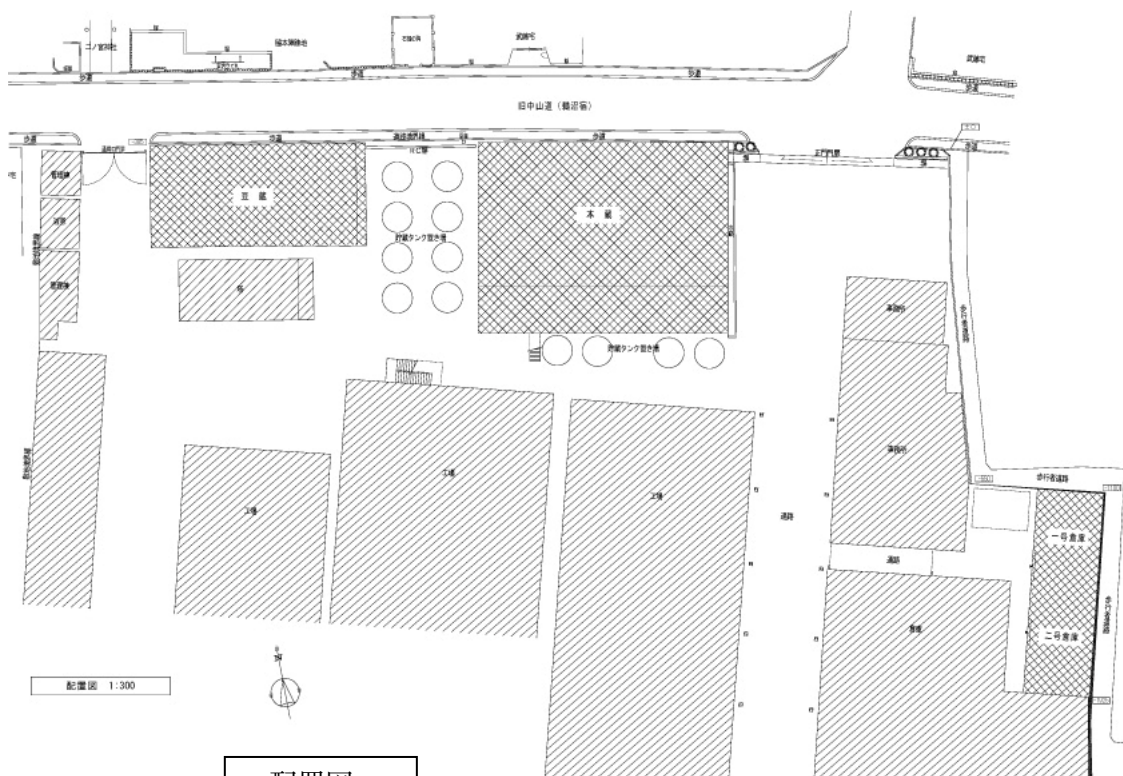


一号・二号倉庫
東面壁全景

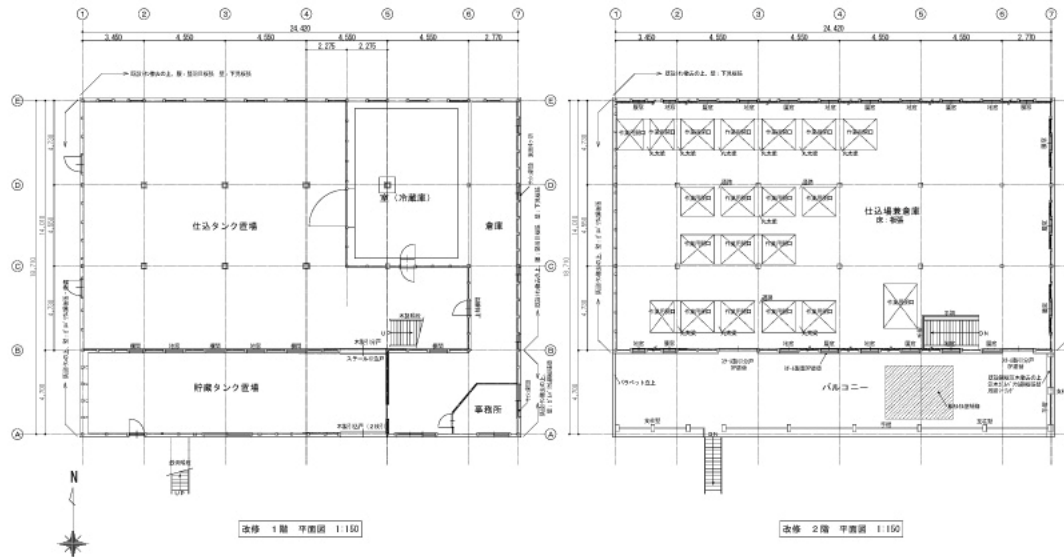


一号・二号倉庫
東面全景

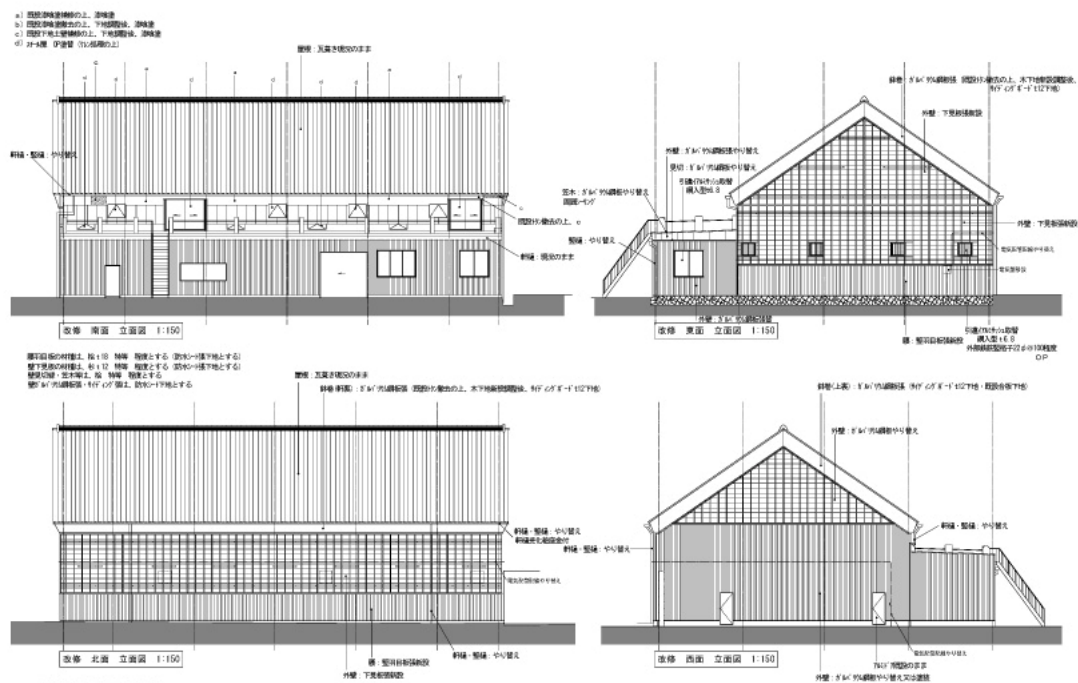
□ 配置図・実施設計図書（抜粋）



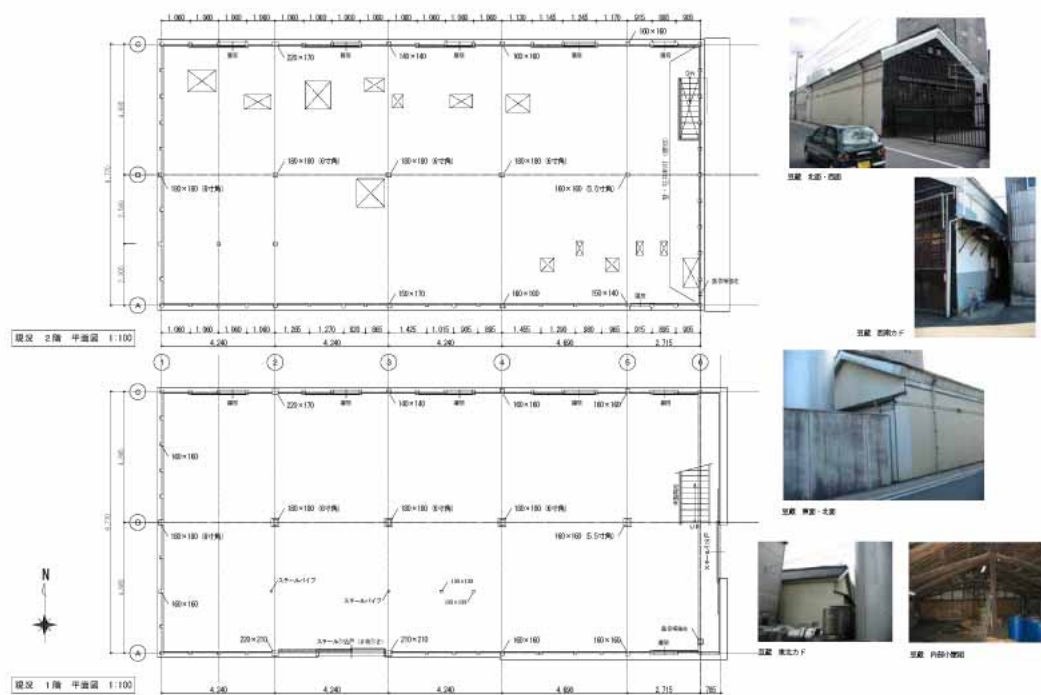
本蔵改修前 平面図



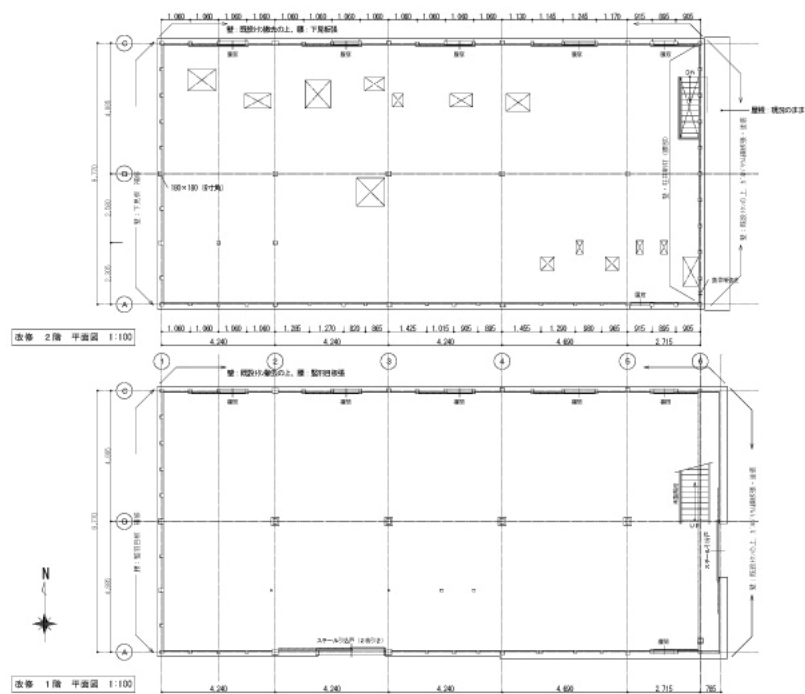
本蔵改修後 平面図



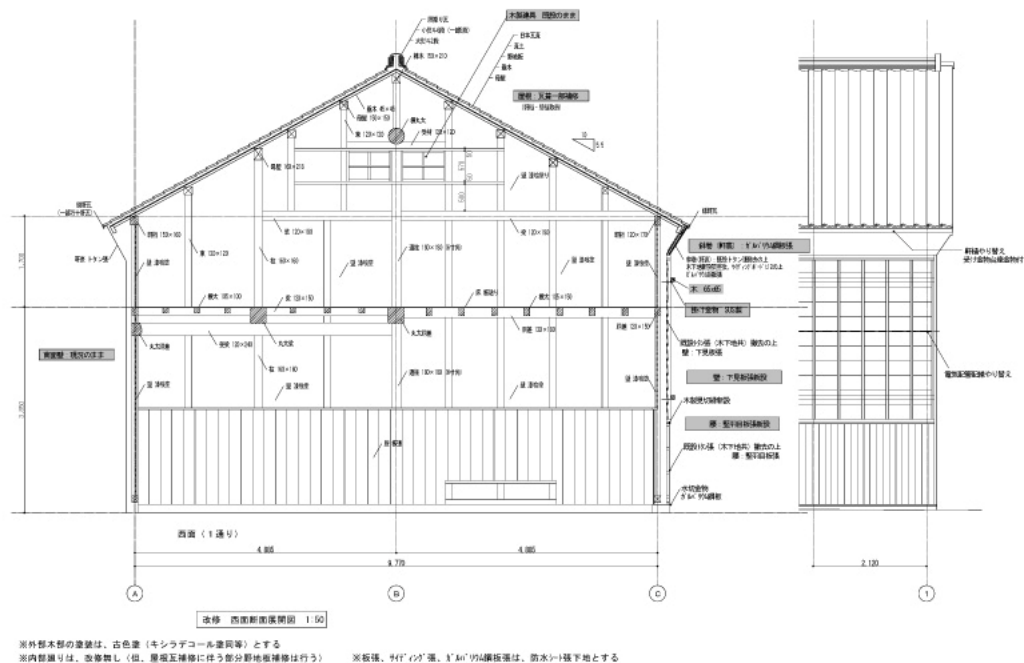
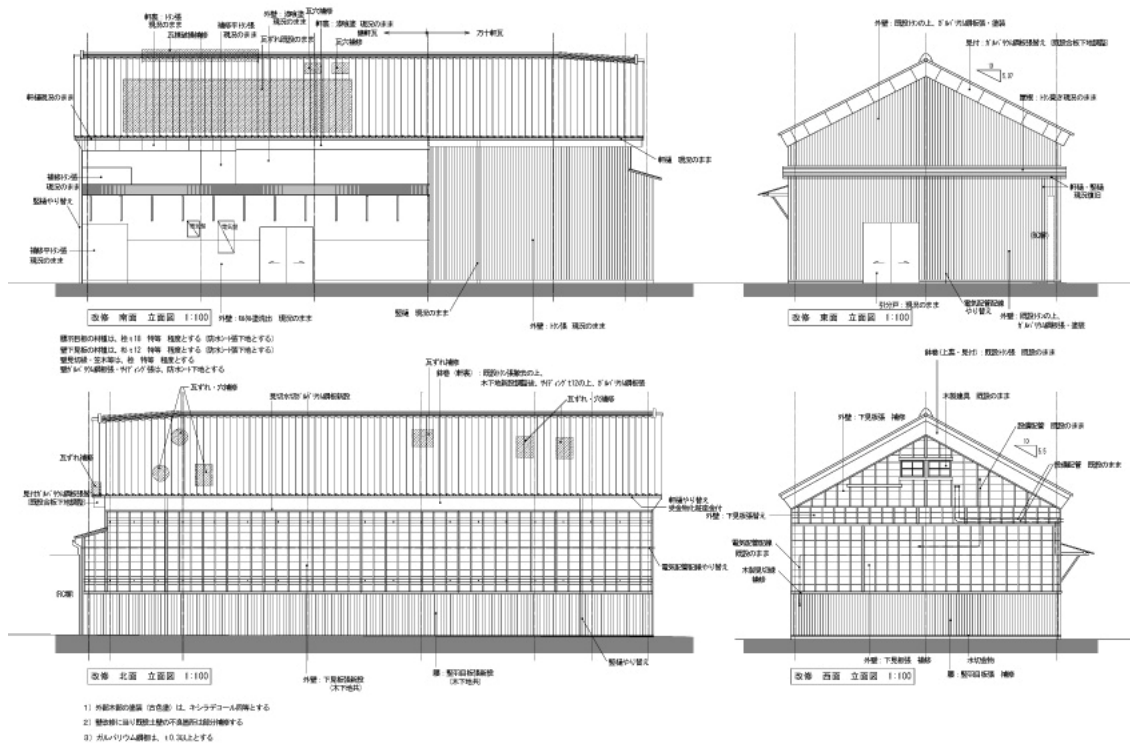
本蔵改修後 立面図

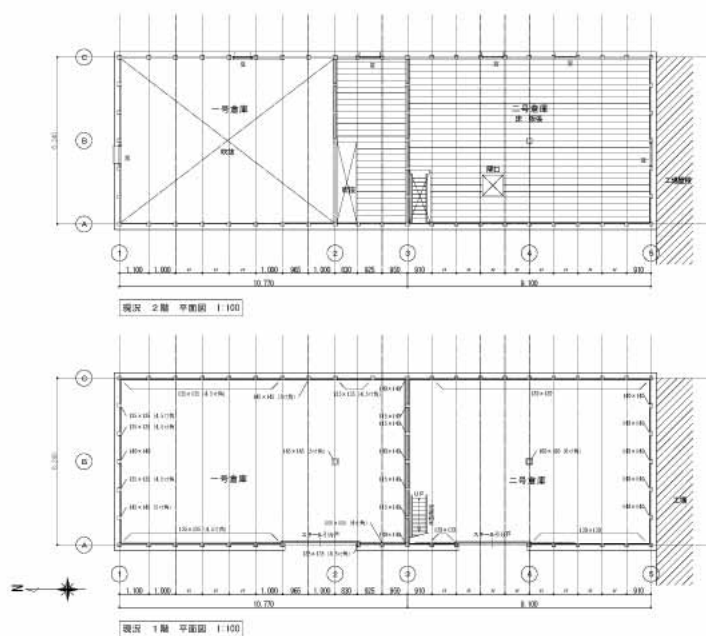
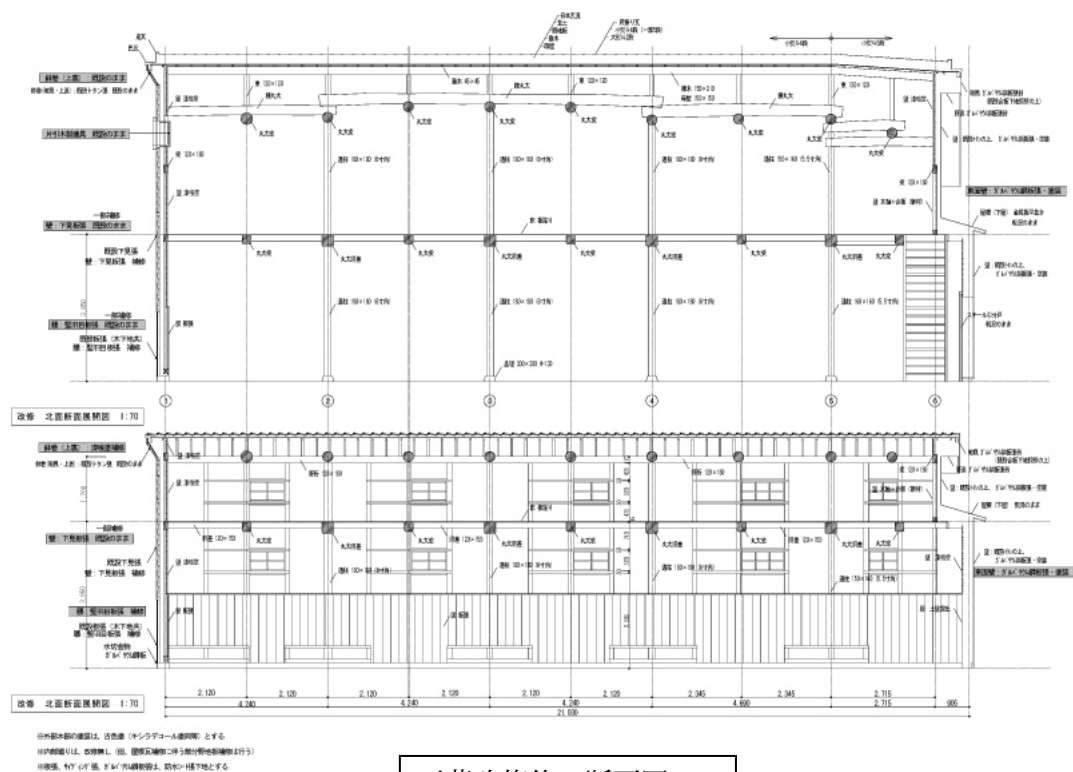


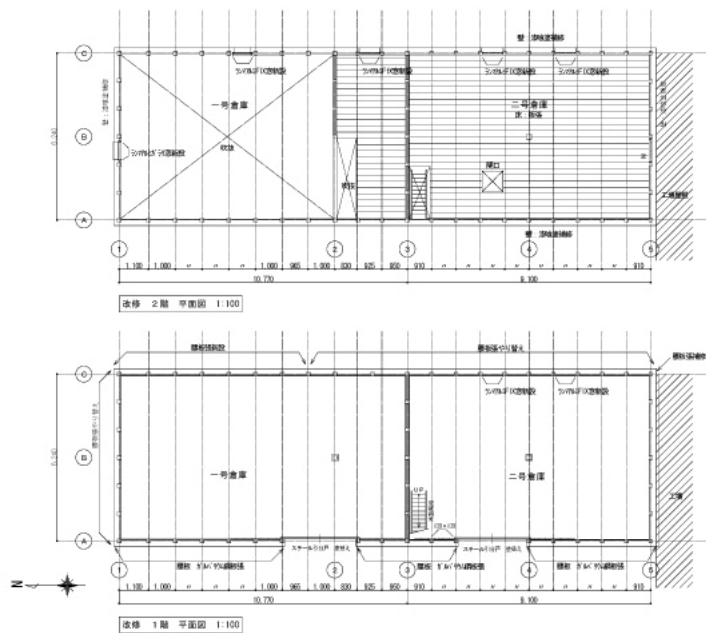
豆蔵改修前 平面図



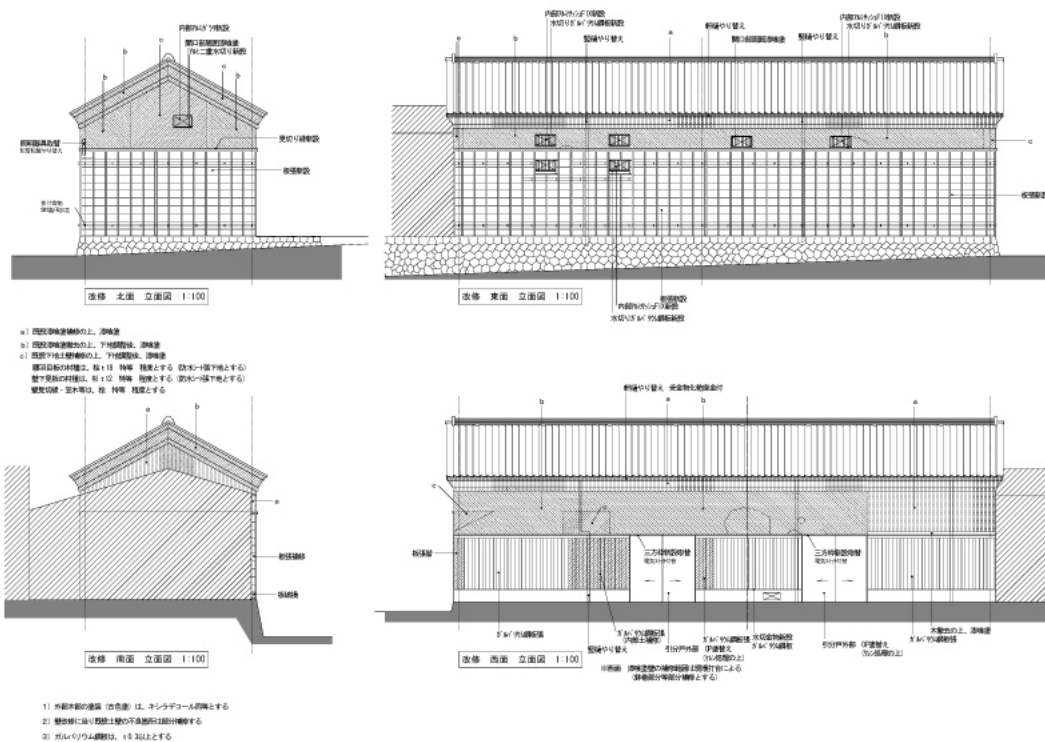
豆蔵改修後 平面図



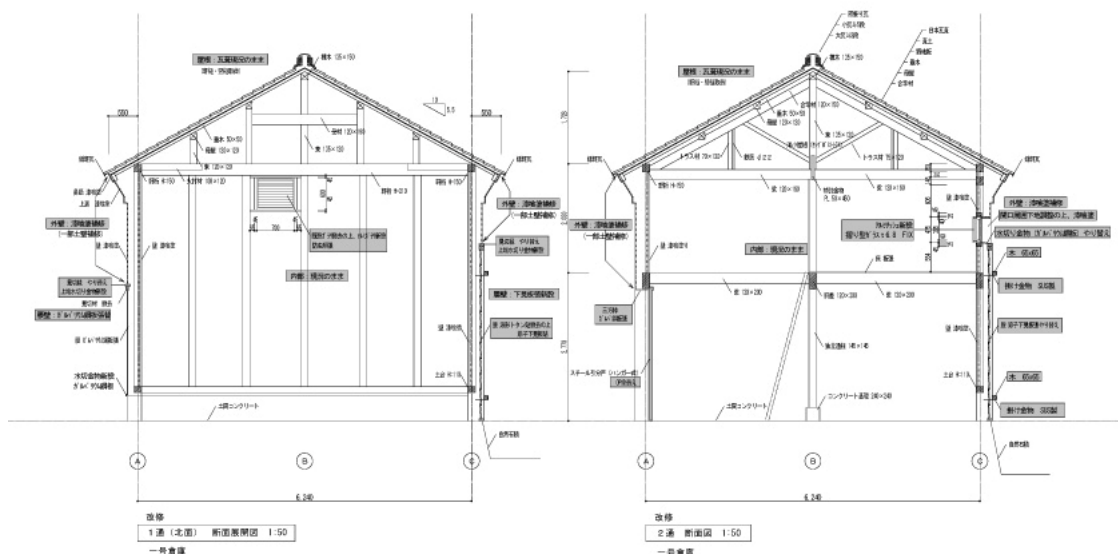




倉庫改修後 平面図

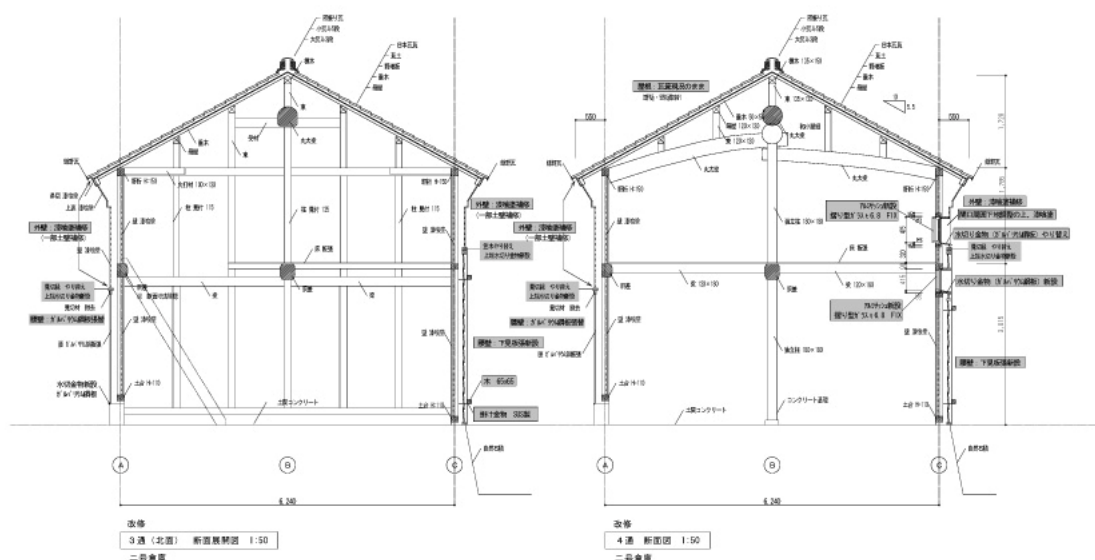


倉庫改修後 立面図



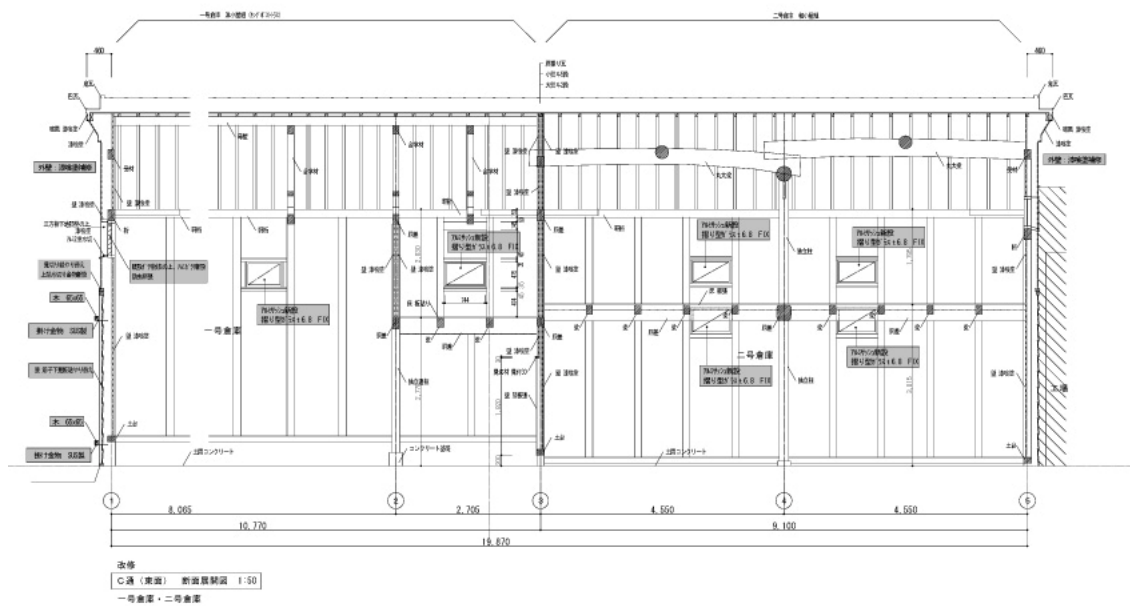
※外部木部の塗装は、古色塗（キシラデコール塗同等）とする
※内部断り等は、図略し
※板橋、4F「ツグ」橋、3F「ツグ」橋は、防水シート下地とする

倉庫改修後 断面図



※外部木部の塗装は、古色塗（キシラデコール塗同等）とする
※内部断り等は、図略し
※壁改修に当り、土壁不具合箇所は部分補修をおこなう

倉庫改修後 断面図



※外断水部の塗装は、古色塗 (キシラデコール塗等) とする
※内断水部は、改修無し
※壁紙等に当たり、土壁不良箇所は部分補修を要する

